

3 部	3 年次	通 年	ソフトウェア技術	履修形態	全員選択
				履修単位	2
科目の目標				教科書	7 実教工業361： ソフトウェア技術
コンピュータのソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。				副教材等	なし
				履修条件	特になし

授業計画(学習内容、単元の目標・ねらい)

期	月	学習内容(単元)	単元の目標・ねらい	
前 ①	4 ・ 5	ソフトウェアの基礎 1 ソフトウェアの重要性	知識・技能	ハードウェアとソフトウェアの概略、それぞれの役割と範囲を理解する。
			思考・判断・表現	ハードとソフトの区別を深く理解し、その基本的な役割について考察できる。
			主体的に学習に取り組む態度	コンピュータを動かすために重要なソフトウェアの概念とその基礎的な事柄・役割・昨日、ソフトウェアの違いによる位置づけに興味を深めている。
前 ②	6 ・ 7	2 ソフトウェアの分類	知識・技能	ソフトウェアの分類方法、システムソフトウェアと応用ソフトウェアの違いを理解する。また、それぞれのようなソフトウェアが含まれるか理解する。
			思考・判断・表現	応用ソフトウェアには、市販されている一般的なソフトウェアパッケージと、専門の業者に開発してもらった専門的なものがあることを理解する。
			主体的に学習に取り組む態度	ソフトウェアの分類方法、システムソフトウェアと応用ソフトウェアの違いを理解する。また、それぞれのようなソフトウェアが含まれるかを習得しようとしている。
後 ①	9 ・ 10 ・ 11	オペレーティングシステム 1 コンピュータシステムの処理形態	知識・技能	コンピュータシステム処理形態や利用形態を理解する
			思考・判断・表現	オペレーティングシステムの働きと目的を理解する。 RASISが何を意味しているか理解する。
			主体的に学習に取り組む態度	OSには多くの機能があり、コンピュータの規模や種類に応じて多くの種類があることに興味を示している。
後 ②	12 ・ 1 ・ 2	2 オペレーティングシステムの概要 3 オペレーティングシステムの機能	知識・技能	オペレーティングシステムの構成を理解する。
			思考・判断・表現	制御プログラムの種類を理解する
			主体的に学習に取り組む態度	OSの中核をなす制御プログラムは、アプリケーションプログラムを含むプログラムの実行を制御するだけでなく、ハードウェア資源の管理・処理、制御・データ管理などに興味を示している。

評価規準(「おおむね満足できる(B)」と判断できる状況)

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価のポイント	前 ①	ソフトウェアとハードウェアの働きを体系的に理解している。	コンピュータにおけるソフトウェアとハードウェアの役割を認識している。	ハードウェアとソフトウェアを効率よく管理する意識が高い。
	前 ②	基本ソフトウェア・プログラミングツール・アプリケーションソフトウェアなどソフトウェアの分類とそれらの特徴を理解している。	コンピュータを活用するためにはどのようなソフトウェアが必要であるかを考えることができる。	コンピュータは現在ではネットワークに接続され、より効率的な運用ができるよう工夫する知識を十分備えている。
	後 ①	コンピュータシステムによって利用されるOSが異なることの知識を身につけている。	OSの処理の目的によってコンピュータシステムの処理形態の違いがあることが理解でき、	OSの概要及びOSの中核をなす制御プログラムの働きなどを意欲的に習得しようとする。
	後 ②	OSには多くの機能があり、コンピュータの種類や規模に応じて多くの種類がある事を理解している。	OSはコンピュータの各装置を効率的に利用するためにいろいろな管理を行っている事を深く理解することに務める。	OSはハードウェアを有効に活用し、効率よく利用するために必要であり、OSがないとアプリケーションソフトは動作しないことを体得している。
評価の場面		学習状況の観察 ノートの記述 プリントの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 プリントの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 プリントの記述